

高等学校第2学年芸術科（美術I）学習指導案

指導者 教諭 中川 靖之

1 題材名 何気ない風景をスケッチしよう

2 題材について

高等学校学習指導要領解説芸術（音楽 工芸 書道）編 音楽編 美術編（平成21年12月 文部科学省）には、美術Iの目標に「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」ことが新たに加わったと示されている。また、この心情とは、「表現と鑑賞の活動を通して美術の楽しさや創造の喜びを味わうとともに、美術の創造活動にかかわる様々な能力を身に付け、美的感覚や価値観をはぐくみ、日常生活の中で主体的に表現したり鑑賞したりし、生涯を通じて美術を愛好していく心情」のことであると述べられている。

本校の生徒の中には「絵を描くのは難しい。」「何を描いたらよいか分からない。」という生徒が多く見られる。授業観察からは、写実的に描けることがよい絵と感じ、心に触れたものを素直に描き出そうとする姿勢はあまり見られない。

そこで、校内で普段見過ごしている場所や風景を、改めて観察してみると、その姿に共感を抱き、興味や愛情を感じることを生徒に気付かせ、見慣れたものも視点を変えて観察すると新しい発見や印象が変わることがあることを実感させたいと考えた。自分で主題を見付けスケッチをし、生徒同士でその表現のよさや美しさを認め合うことを通して、常識や既成概念にとらわれないものの見方や考え方を身に付けさせたい。そして、スケッチの手軽に描くことのできるよさと、その先の表現につながっていくという学びを実感させることで生涯にわたり美術を愛好する心情を育てていきたいと考え、本題材を設定した。

3 目標

- 日常の風景をスケッチすることに関心を持ち、主体的に活動に取り組もうとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 感性を働かせて、主題を見付け、創造的な表現の構想を練る。
(発想や構想の能力)
- 自分の主題に合わせて水溶性色鉛筆の使い方を工夫し、いろいろな技法を試しながら表す。
(創造的な技能)
- 自他の作品のよさや美しさを感じ取り、日常生活の中の美を味わう。
(鑑賞の能力)

4 準備・資料

(生徒) スケッチブック、鉛筆、教科書、筆等

(教師) 参考作品、スケール、水溶性色鉛筆、制作カード

5 学習内容と指導計画（5時間扱い）

過程	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
		○ 学習内容の確認 「何気ない風景」	・ 日常の風景をスケッチすることについて知る。	・ 鉛筆と色鉛筆によるスケッチであることを示し、気楽に取り組ませる。

<p>導 入</p>	<p>1 時 間</p>	<p>をスケッチする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題の見付け方を理解する。 ・ 主題に合った表現方法の工夫について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダビットやゴッホを例に挙げ、限定された中でも、自分を取り巻いている自然に対して深いかかわりを意識すれば、心にとまるものが見えてくることに気付かせる。 ・ 主題を探す際は、見過ごしているもの、絵になりそうにないもの、角度を変えてみること等を意識させる。 ・ 視線が漫然とならないように、スケール（画用紙に四角い窓を開けたもの）を覗いて探すようにさせる。 ・ 場所は学校の敷地内であれば自由とするが、安全面については十分指導する。
<p>展 開</p>	<p>3 時 間</p>	<p>○ 制作 校内にて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題を決定する。 ・ スケールを活用して、画面構成を考える。 ・ 鉛筆で下絵を描く。 ・ 水溶性色鉛筆で彩色する。 ・ 主題に合った表現を試す。 ・ 見直しと描き込みをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケールを覗いて見付けた風景は、そのまま描かず、さらにポイントを絞り込むよう助言する。 ・ 彩色の具合を考え、下絵の描き方も加減するよう助言する。 ・ 彩色においては、実際の色を表現するだけでなく、感じた印象に合わせた色をつくってみよう助言する。 ・ 制作も3回に分かれてしまうので、各授業の始まりに主題と画面とイメージの確認をする。 ・ 彩色が思うようにできない生徒には、他のいろいろな技法を示し、より自分の主題に合った方法を選択できるように助言する。
<p>ま と め</p>	<p>1 時 間</p>	<p>○ 相互鑑賞とまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互に作品を鑑賞する。 ・ 感想を書く。 ・ 感じ取ったことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の作品のよさや違いを感じ取らせ、水溶性色鉛筆の表現の美しさを味わうことができるようにする。 ・ よさや美しさなどについて、自由に話し合うことができる雰囲気づくりに努める。 ・ 鑑賞した作品や表現方法を今後の自分の制作に生かしていけるように意識させる。 ・ 日常生活の中の風景の気付きを、自分の言葉で表現することができるようにする。